

留 学 報 告 書

記入日:2015年8月20日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部 文学科 ドイツ文学専攻
留学先国	ドイツ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ハインリッヒハイネ大学 現地言語: Heinrich Heine
留学期間	2014年9月～2015年7月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	現代日本学部
帰国年月日	2015年7月16日
明治大学卒業予定年	2016年9月



留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:10月中旬~2月初旬 2学期:4月中旬~7月中旬
学生数	約17000人
創立年	1965年

留学費用項目	現地通貨 (ユーロ)	円	備考
授業料	500	70,000円	contribution
宿舍費	4,000	560,000円	アパート
食費	1,800	252,000円	
図書費		円	
学用品費	150	21,000円	
教養娯楽費	500	70,000円	
被服費	200	28,000円	
医療費		円	
保険費	714	100,000円	形態:プライベート保険
渡航旅費	1,071	150,000円	
雑費		円	
合計	8,935	1,251,000円	

渡航関連

渡航経路:コペンハーゲン経由

渡航費用

チケットの種類 1年間オープンチケット

往路

復路

合計 141,000円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

エイビーロード、インターネット

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍など)

アパート

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3)住居を探した方法:

大学の日本語教師の方に住居のつてがないかメールで尋ね、紹介していただいた。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

ヨーロッパの中でも有数の日系企業が多い町であるため、日本人と出会うことが多いです。付き合い方次第でそれがメリットにもデメリットにもなると思います

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか？ 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

利用する機会が無かった

利用した: 歯医者

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

大学の国際科があるので、そこで相談できます。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

パリに行った時、すりにあいそうになりました。対策としては、体に巻きつけるタイプの小さなバッグがあると便利です。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

アパートは Wifi が通っていました。外ではカフェに必ず wifi がありました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？ (例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

留学開始時に 100 ユーロ口座に振り込んでもらいました。口座がないと VISA を取得できないので、到着後すぐに作ることをお勧めします。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

日本食品専門のお店もあるので、特にないと思います。

進路について

1) 進路

就職

進学

未定

その他: 就職浪人

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

特になし

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。

(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

留学をして考え方が変わることは多いです。必ずしも志望先などが固まるとは限らないと思います。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
18 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付して下さい。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Grundstufe Deutsch A2.1	基礎レベルドイツ語 A2.1
科目設置学部・研究科	国際科
履修期間	一学期
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	少人数授業
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Hristzova
授業内容	ドイツ語を教科書に沿って、グループワークなどを通じて進めていきます。
試験・課題など	プレゼンテーション、筆記試験
感想を自由記入	読み書きよりも会話重視ということで、この授業を選びました。他国からの留学生ともコミュニケーションをとる機会がたくさんあり、友達が増えたことも良かったです。教科書レベルは非常に簡単なので、その分授業中どれだけドイツ語を口に出す機会を増やせるかが鍵だと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Sprachtraining B1	会話トレーニング
科目設置学部・研究科	国際科
履修期間	1 学期
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	小人数授業
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Voltermann
授業内容	毎回ドイツについての様々なテーマのプリントが配布され、それについてグループワークをしながら進めていきます。
試験・課題など	プレゼンテーション(エラスムスのみ)
感想を自由記入	会話能力を伸ばしたいなら是非お勧めの授業です。プレゼンテーションはエラスムスの生徒のみ必須の試験ですが、希望すれば行うことが可能です。オールドドイツ語のプレゼンはとても勉強になりますし、日本文化を発信できるチャンスにもなりますので、お勧めです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Deutschkurs fuer Partnerhochschulen2 B1.2	主に日本人用のドイツ語クラス
科目設置学部・研究科	国際科
履修期間	1 学期
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	小人数授業
授業時間数	1週間に90分が4回
担当教授	Peter
授業内容	教科書に沿ってドイツ語を進めていきます
試験・課題など	筆記、リスニングテスト
感想を自由記入	週に 360 分あるので、教科書についてもれなく学ぶことが出来ます。進行速度が速いので復習が大変ですが、話す機会は多いと思います。先生もとても熱心ですので、お勧めです。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2013年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	
2014年 1月～3月	アルバイトで貯金
4月～7月	アルバイト、ドイツ語の勉強、留学先とのやり取り (入学申し込み、住居探し等)
8月～9月	ドイツ語の勉強、荷物整理、渡独
10月～12月	住民票取得、口座開設、Visa 取得の予約、授業開始
2015年 1月～3月	期末テスト、授業終了
4月～7月	授業開始、期末テスト、授業終了、帰国
8月～9月	留学終了報告、保険契約解除等
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	大学受験の際、海外へ留学できるチャンスが多い学科ということ、また英語以外にもひとつ言語を学びたいということで、ドイツ文学科を選択しました。なぜそこまで海外に興味があったかということ、にわかに日本と違う文化が存在するという現実が信じられなかったからです。島国ゆえの固定概念といえますか、それを疑ってみたいと思ったことが最初の理由だったと思います。また、現在はインターネットが普及しているので、海外の情報を容易に得ることができ、海外に行った気分になれますが、実際言ってみるとまったく違います。そういった当たり前のことも確認したかったです。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	やはりお金は留学で必要不可欠なので、バイトでお金をためました。また、これをやっておけばよかったというのは、英語です。大学ではドイツ語だけでなく、英語を使う機会も多いです。特に留学生同士の会話は英語がほとんどなので、とても便利ですし、生活をより充実したものにできます。それに加えて、もし英語がかなりのレベルに達しているならば、英語で様々な授業を取ることができます。ドイツ語と平行して勉強できる方はやってみてください。
この留学先を選んだ理由	デュッセルドルフという町での一番大きな特徴は、日本人が多いことでしょう。ここで考え方はいくつかに分かれるでしょう。日本人とは絡みたくないから良くない、また日本人が多い分困った時に助けになる、などです。どちらも正解ですし、不正解でもあると思います。一番大事なのは自分がそこでどう判断して、どういう行動を取るかだと思います。そのためにも、出願先を選ぶ前に自分の能力、癖、身の程を知っておくことが大事でしょう。それに応じて自分の留学する環境を選択してみてください。
大学・学生の雰囲気	大学は郊外に位置し、自然にあふれ、治安の良さも文句ありません。中央駅にも電車で20分ととても便利です。大学自体の敷地面積はかなり広く、縦断すると20分以上かかるほどです。学生たちはとてもどかか、生き生きとした印象を受けました。太陽が出れば多くの人が芝生の上で日光浴を始めたりと、日本ではなかなか味わえない時間の進み方をしています。また、スポーツ環境にも非常に恵まれていて、サークルにも気軽に入ることが出来ます。
寮の雰囲気	寮には残念ながら定員オーバーではいることができませんでした。例年にはないことらしく、それも留学の3ヶ月前に伝えられ、かなり面を食らいました。特に夏学期からの留学生は人数が多く、このようなことが起こる可能性があるのも、注意してください。あらかじめ入学手続きの際にメールでどのくらい確認した方がいいかもしれません。交渉次第で取れないものも取れてしまうような社会なので。
交友関係	交友の8割はドイツ人とでした。というのも、この大学には現代日本学部というものがあり、日本に興味を持つドイツ人が何百人といますので、ドイツ人の友達を作ることに苦労はしませんし、ドイツ語を話せる環境も他の大学より多く作ることができるかもしれません。タンデムはここでは当たり前のように行われていて、私も週2~3回の頻度でやっていました。タンデムの際の注意としては、特に女性の方は、男性とタンデムをする時は慎重にやりましょう。こちらはただドイツ語を勉強したいだけというつもりでも、向こうは大抵距離を縮めてこようとします。これは男女二人でどこか食事などに行くということに対しての国々での認識でもあるのですが、ドイツはデートというような見方もするようです。もちろん純粋にドイツ語を勉強したくて来る男性もいます。しっかり見極める力をつけてください。
困ったこと、大変だったこと	誰でも経験することですが、ネイティブの言っていることが聞き取れないということです。日本で教材などを使ってもちろん勉強はしてくるとは思いますが、実際現地の生きたドイツ語というものは違います。また、日本にいるドイツ人先生の使っているドイツ語は、外人も理解しやすいやさしいものです。ですが現地のドイツ人、特に大学生の若者言葉はまず日本で習うことができません。正直一年たってもドイツ人同士の会話は理解できないことが多々ありました。
学習内容・勉強について	一年通じて話すということに力を入れてきました。というのも、海外でできる一番大きなことが会話だと思っていましたし、読み書きは帰ってからやろうという意気込みでしたので。会話の練習は頭をフルに回転させなければなりません。覚えた単語を口に出せるレベルまで持っていくことは、ただ暗記するだけではできません。また、私は1対1のタンデムを主な練習場にしていたので、話題づくりも大変でした。ですがドイツ人の若者が考えていること、それも深いところまで聞くことができたのは、かけがえのない経験になりました。

課題・試験について	明確な課題というよりは、次にこのテーマをやるから各自予習をしておいて、というものが多かった気がします。予習の重要性も痛感しました。会話を伸ばしたいのであれば、授業内で話す機会を増やすに越したことはありません。授業内で発言をするとすると、そのテーマについてある程度の理解度は必要なわけです。そのためにも予習は欠かせないということです。また、プレゼンテーションの際には、是非他の留学生の発表にも注目してほしいです。表現力は言語力を超えるということがわかります。
大学外の活動について	バスケットボールに週 1,2 回通っていました。そこでは社会人が多く、普段大学では会うことができないような人たちと一緒にバスケットをし、交流することができました。ここでの活動が私にとって大学の授業と同じぐらい価値あるものになったのは確かです。元々外国人とバスケットをしたいという願望があり、それがかなったのは本当に幸せでした。言語の壁を乗り越えて、純粋にいっしょに運動を楽しむことができるというのは、運動をやって来た人なら誰でもたまらない経験であるはずですよ。
留学を志す人へ	留学の目的というのは人によって違います。語学を勉強したい、専門の勉強をしたいだけでなく、異国の友達をたくさん作りたい、各地をたくさん観光したいというのも立派な目的です。もちろん協定留学生としてしなければいけない義務はあります。それをこなした上で、自分をもっともしてみたいことをしてみてください。そのためにも留学はこうでなくてはならない、という固定概念から一度脱する必要はあります。後悔のない留学になるはずですよ。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	ドイツ語 授業	自習	英語授業	ドイツ語 授業	ドイツ語 授業	バスケット	一日観光
				ドイツ語 授業	ドイツ語 授業		
午後	ドイツ語 授業	タンデム	タンデム	ドイツ語 授業	タンデム		
	英語授業	自習	自習	自習			
夕刻	自習	サッカー			友人と食事	自習	
夜				バスケット		友人と食事	